生ごみ自家処理 こうしてためています！

国立市ごみ問題審議委員
丸本 明子

ベランダのフエルトプランター

土の力に感動しながら生ごみ処理

８年前に初めて谷保（国立市の南部）を訪れた時、「土がたくさんあるところ」という印象を受けました。

私の母は、生ごみは庭の土に埋めたりコンポストを使ったりして処理し、食器の洗い水は植物の水遣りに使っていました。正直なところ、子供の頃はそれを見ながら「面倒臭そう」「何故ごみに出してしまわないのだろう？」と思っていましたが、いつのまにか私も自分で生ごみを処理し、洗い水でプランターの水遣りをするようになり、母がそうしていた理由がわかるようになりました。

どうしたら生ごみを極力負担なく自家処理できるだろう？…と考えていた約３年前、偶然テレビ番組で目にしたのが葉山町で考案された「バクテリア・デ・キエーロ」でした。太陽の熱や風通しを利用して土の中のバクテリアの助けを借り生ごみを分解するこの装置を知り、「私の探していたのはこれだ！」と直感しました。

その直後に国立市の公民館でキエーロの講習会が開催され、参加させていただきましたが、ひとつ難点はかなり重量のある装置であるため、マンションの我が家への設置には躊躇するところがありました。そこで、この方式で同様にできる方法はないだろうかと考え、やり始めたのがフエルトプランターに土を入れた「キエーロモドキ」です。フエルトプランター自体は軽いので日当たりが良い場所へ移動しやすく、また通気性が良いせいか今のところほとんど虫が湧く事もなく、まずまずの成果を得ています。土の力で消えていく生ごみを見ていると「今日もこれだけ無駄に燃やすエネルギーを使わずに済んだ！」と実感でき、土の力に感動します。

現在国立市でも、キエーロの縮小版「ミニ・キエーロ」のモニター実験を行っていますが、モニター数も順調に増えてきている事から関心の高さを確信しております。

今年7月からは、いよいよ生ごみ堆肥を使った野菜づくりを始めました。地場野菜販売店『とれたの』の野菜くずや、キエーロでのごみ減量に5月から取り組まれている『やまもりカフェ』（谷保のコミュニティスペース「やぼろじ」内の飲食店）の調理くずのおすそ分けをいただいて、『野の暮らし』主宰・すがいさんのご協力の下、谷保のコミュニティガーデン『みんな畑』（写真左）で堆肥化し、野菜を育てています。

小さな取り組みではありますが、地域コミュニティから楽しくごみの事を考えられる機会が増えていけば嬉しく思います。

現代の生活様式の中で忘れられてしまったのか、若い世代には有機物が土で分解される事を知らないという方が多いとか。そんな今、より多くの方たちに土の力を知ってほしい、生ごみを土へ還し、そこからから生まれる命をいただくという「環（わ）の中に組み込まる」快さを思い出してほしい、と願うばかりです。